

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算

支出科目 款：教育費 項：教育総務費 目：教育指導費

事業名 いじめ・不登校等未然防止事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

教育委員会 学校安全課 生徒指導係 電話番号：058-272-1111 (内 3145)

E-mail：c17770@pref.gifu.lg.jp

1 事業費

2,818 千円 (前年度予算額：2,218 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	2,218	0	0	0	0	0	0	0	2,218
要求額	2,818	0	0	0	0	0	0	0	2,818
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

いじめ・不登校等の未然防止・早期発見・早期解消のため、学校での取組、家庭や地域を巻き込んだ取組の双方が重要。

いじめ・不登校等の未然防止のため、平成22年度より4市で国立教育政策研究所の「魅力ある学校づくり調査研究事業」(下呂市：平成22～23年度、瑞穂市：平成24～25年度、海津市：平成26～27年度、羽島市：平成28～29年度)に取組んできた。

【「魅力ある学校づくり調査研究事業」の概要と成果】

- ・(概要) 学校の「集団づくり」と「授業づくり」の中で、全ての児童生徒に活躍の機会を与え、仲間から認められているという自己有用感を高める取組や、どの児童生徒にとっても安心して学校生活を送れる場所をつくっていく取組。
- ・(成果) 国立教育政策研究所の「魅力ある学校づくり調査研究事業」(平成26～27年度)の報告書(平成29年1月)では、「指定地域全体で約20%の不登校数を減少させることができた」「いじめの抑制にも効果があった」と報告された。

(2) 事業内容

- ① 「いじめ・不登校等未然防止アドバイザー」派遣事業

- 「魅力ある学校づくり」の成果の普及のため、この事業に携わってきた有識者を「いじめ・不登校等未然防止アドバイザー」として県内全域の市町村教育委員会や学校に派遣。
- ②「あったかい言葉かけ県民運動」促進事業
 - 地区生徒指導連携強化委員会（各教育事務所 年2回開催）
 - ・児童生徒とPTA、地域住民、青少年育成団体等との交流会「居場所と絆づくり交流会」や、インターネットの正しい使い方について学び合う「安心ネット啓発活動」を実施。
 - 「あったかい言葉かけ運動」の推進
 - ・学校、家庭、地域から「あったかい言葉かけ運動」の作品を募集し、優秀作品をまとめたリーフレットを県内の全児童生徒に配布。
 - ・あったかい言葉かけ運動の優秀作品をフェイスブックや広報誌等で紹介。

（３）県負担・補助率の考え方

- ・県10/10
- ・県内公立学校への支援事業等であるため、県負担が妥当。

（４）類似事業の有無

- ・無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	1,374	いじめ・不登校等未然防止アドバイザーの謝金
旅費	664	いじめ・不登校等未然防止アドバイザーの派遣旅費等
その他	780	消耗品等
合計	2,818	

決定額の考え方

4 参考事項

（１）各種計画での位置づけ

- ・第3次岐阜県教育ビジョン
 - 基本方針2 多様な学びを支援する教育体制の充実
 - 目標10 いじめ等の未然防止と早期発見・早期対応の徹底

事業評価調査書（県単独補助金除く）

- | |
|--|
| <input type="checkbox"/> 新規要求事業 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業 |

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

児童生徒の問題行動、特に、いじめや不登校の問題に対処するため、自尊感情（自己肯定感）を高めるため「魅力ある学校づくり」の推進と「あったかい言葉かけ運動」の取組を通して、いじめや暴力行為等の問題行動及び不登校の未然防止を図る。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値 <small>（前々年度末時点）</small>	目 標	達成率
中学 1 年生の新規不登校が出現する割合	62.0% (H29)	(H)	(H)	59.4% (H30)	40% (R02)	11.8%
	% (H)	(H)	(H)	% (H)	% (H)	%

○指標を設定することができない場合の理由

（前年度の取組）

・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）

県内 6 地区（各 2 回実施）で小中高特生徒指導連携強化委員会を開催し、地域ぐるみで温かい人間関係を構築する取組を交流した。また、実践校を中心に「まとめの会」を開催することで、他の学校及び教育委員会への啓発を図った。

（前年度の成果）

・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果

実践校における自尊感情（自己肯定感）を高めるための「未然防止を意図した教育相談の在り方」や「社会性を高める学級経営の在り方」に係る研究開発・事業実践の成果を市町村教育委員会及び学校へ普及する。

そのために手引書を作成し、効果的な「授業づくり」「集団づくり」の方途を県内へと広げる。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い 	
(評価) ○	いじめや暴力行為等の問題行動及び不登校の要因は複雑化・多様化しており、「未然防止を意図した教育相談の在り方」や「社会性を高める学級経営の在り方」が喫緊の課題になっている。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない 	
(評価) ○	あったかい言葉がけ運動が学校、家庭、地域に広がり、自尊心（自己肯定感）や自己有用感につながる実践が多く報告されている。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある 	
(評価) ○	学校及び市町村教育委員会との連携を常に図りながら、年間を通して計画的に研修や指導、実践、振り返りを繰り返しながら事業を推進している。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 「いじめ・不登校等未然防止アドバイザー」の活用の工夫と事業成果をどのように県内の学校に普及するのか。
--

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 学校や児童生徒及び保護者が抱える問題は年々複雑化・多様化しており、いじめや暴力行為等の問題行動と不登校の未然防止を図るために、継続事業として取り組む必要がある。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	
組み合わせる理由や期待する効果 など	